

竹野南地区の 防災について 考えましょう 第2回

2020.10.23



NPO法人わいわいみ・な・み



**竹野南地区の水害課題から
私たちの生活を守るために
自分で できること
みんな で できること**

1 回目で行った課題確認

地形課題 主なもの

- 谷川の水が、家屋や道路へ流出
- 土石流の危険と道路の封鎖、孤立
- エリアの浸水（いつものところ）
- 個人宅の浸水
- 避難場所が危険個所

人課題 主なもの

- 家族がいても、避難ができない世帯
- 高齢になり、足腰に不安がある
- 昼間は、高齢者だけになる
- 外国の人に緊急通報が通じるのか心配

全世帯アンケート結果

地形課題（主なもの）

- ・ 山が崩れそう
- ・ 決まったところが、崩れ道路が封鎖
- ・ 谷川の水が土砂水として流れてくる
- ・ エリアの浸水

人課題（主なもの）

- ・ 車に乗れないので、生活全般が不自由
- ・ 放置家屋の倒壊が心配
- ・ すぐに動けない高齢者を抱えているので、避難できるか不安
- ・ 病気があり、日常でも出かけにくい
- ・ 耳が遠く、電話も聞こえない

話し合いのルール

- 個人ケースは行わない
(各個人対応は行政区ごとに、別日で行って下さい)
- だれが いつ なにをする どこへ を考える
(自分でできること・周りが支援すること)
- 避難所・避難先へ行くときの準備は何が必要？
(地区ごと、避難場所によりちがう)
- カテゴリに分けて考える
(元気な人・高齢世帯・要介護・障害など)

自助・共助・公助を意識して

「自助」とは、

各家庭や、個人で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難するなど、
自分で守る事を言う

「共助」とは、

地域内の災害時要援護者の避難に協力したり、地域の方々と声を掛け合う、
消火活動を行うなど、周りの人たちと助け合うことを言います

「公助」とは、

市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のことを言います

災害時には、自助・共助・公助が互いに連携し一体となることで被害を最小限にできるとともに、早期の復旧・復興につながるものとなります

サンプルケース 神原の場合

台風予報などが出たら

- 高齢者だが動ける人は、自宅の2階に避難
- 支援や介護が必要な人は、早めに施設のショートステイ（お泊り）を利用して施設避難（ケアマネや施設へ早めに相談）
- 一人暮らしなので、早めに豊岡の息子の所へ避難
- 高齢世帯で不安なので、友人や、隣の家人と一緒に過ごす
（自分の毛布や、カップ麺、おにぎりを持って）
- 耳が遠いので、区長が代わりに神戸の娘に電話し、迎えにきてもらうよう伝える
（緊急連絡先を事前に区へ教えてもらう）
- 梅田は浸水しやすいので区長から、早めに自主避難の声かけをする

助け合いも意識する

**1行政区では無理なことが、出てきたから
コミュニティ組織がつけられた。**

**災害時も、近隣の行政区との連携や助け合
いを、意識しながら行動することが必要な
のでは？**

グループに分かれます

- ▶ **1班** 床瀬～小城 (多目的ホール)
- ▶ **2班** 森本・坊岡 (研修室)
- ▶ **3班** 御又・河内・門谷 (県民交流広場)
- ▶ **4班** 三原～須野谷 (調理室)

事例紹介

高齢者が多い区で、以前台風の際に、区の真ん中を山水が出て、分断された経験から

- ・大型の台風情報などが出たら

区の会館にみんなで、明るいうちに集まり区として自主避難するが、被害もなく空振りだったとしても区民がつどい、語らう日として楽しみながら過ごせば、いい時間が過ごせた、みんながいるから安心と思うようにしようと区民へ投げかけた。

(物事は考えよう、捉えよう)

持ち物は、自分の枕や毛布、食べたいもの

**次回は 11月27日（金）
19時30分～ 最終回**

お疲れ様でした